

「日本の自画像展」の準備は、ポスターもできあがって、いよいよ最終段階を迎えています。



この展覧会では、木村伊兵衛、東松照明、土門拳、奈良原一高といった著名な写真家 11 名の作品 168 点をご紹介します。これらの作品には、敗戦直後の厳しい社会状況から、復興の道を歩み、経済成長を軌道にのせた 20 年間の記録されています。そこにはたとえ貧しくても、明るく、力強く生きてきた人々の姿があります。敗戦の傷跡、占領下での生活、伊勢湾台風の被害、歌声喫茶など、当時をご存じの方々は、その情景にご自身を重ね合わせていただけることでしょう。より若い世代の方々には、ご両親、お祖父さんやお祖母さんたちが生きてきた時代を、きっと身近に感じていただけるに違いないと思います。

ポスターの作品は土門拳の《紙芝居》です。まだ家庭にテレビがなかった頃、子どもたちの楽しみは、

街角に集まって楽しむ「紙芝居」や「しんこ細工」でした。紙芝居を食い入るように見つめる子どもたち、そこに自分もいるように感じていただける方も少なくないと思います。そういえば髪型も、男の子は刈り上げで前髪を揃え、女の子は「おかっぱ」がお決まりでした。テレビやパソコンが普及して、いつの間にか私たちの生活は大きく変わってしまいました。放課後も塾に通い、家にもテレビゲームなどに熱中しているせいか、街中で遊ぶ子どもたちの姿を見かけることは少なくなりましたが、ここには皆で遊ぶ元気な子どもたちがいます。

「あの時 私は」という言葉には、写真家それぞれが何を見ていたのか、そして作品のなかの一人一人がその時代をどのように生きていたのか、ということへの思いが込められています。

日本を代表する写真家たちの優れた作品と、そこに記録された時代と人々、その両方を楽しんでいただける展覧会です。また、同時に当館所蔵の東松照明《愛知曼陀羅》から、選りすぐりの作品も特集展示します。どうぞお楽しみに。

(MuM)